

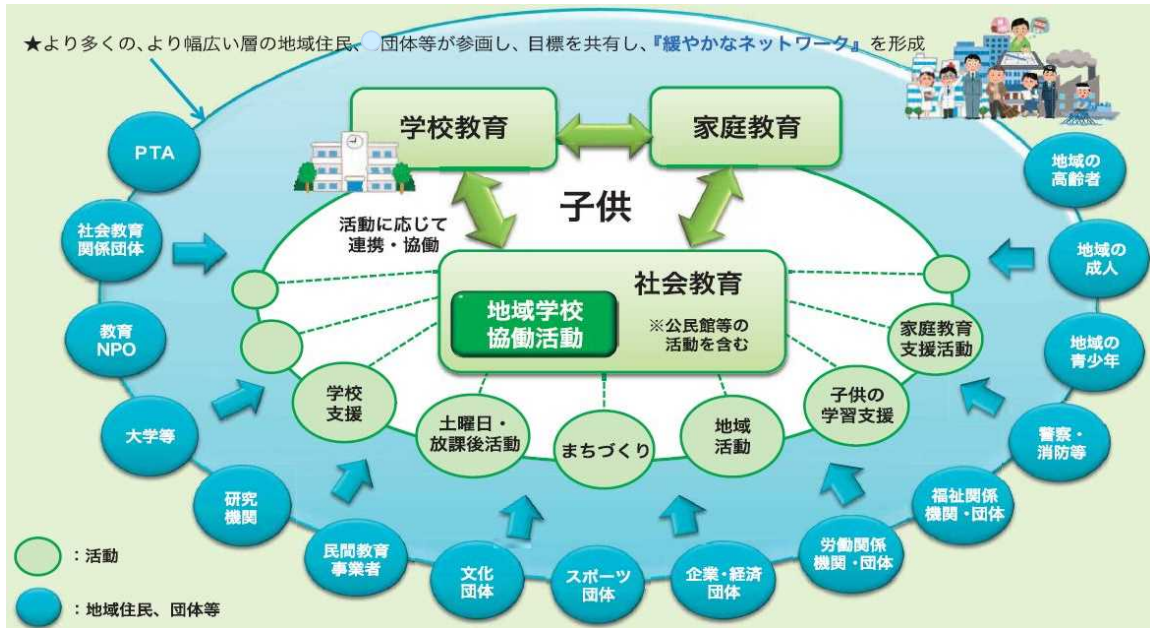
**Q6：地域学校協働活動とはどのようなものか。**

A： 地域学校協働活動とは、地域が学校や子どもたちを「応援・支援する」という一方の関係であった従来の活動を、地域と学校が「パートナーシップ」に基づき双方向の関係へと形を変え、「学校を核とした地域づくり」を目指して連携・協働する様々な活動である。

双方向の関係とは、互いの役割を認識し、学校と地域が共通の目標に向かって対等な立場で共に活動することである。

重要なことは、新しいことを始めることではなく、下図（地域学校協働活動概念図）が示すように、これまでの活動をベースに、より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成していくことである。

**【地域学校協働活動概念図】**



**～地域学校協働活動を推進する背景～**

近年、学校が抱える課題の複雑化・困難化、地域社会のつながりや支え合いの希薄化など時代の変化に伴い、学校と地域の在り方も変化している。このようなことから、平成29年3月の社会教育法の改正で地域学校協働活動が法律に位置付けられ、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みが整えられた。

**～地域学校協働活動によって期待できる効果～**

①子どもたち

発達の段階に応じた多様な学びの中で、地域や社会と関わり、様々な大人と出会い、社会的・職業的自立や他人を思いやる心、学びへの意識の向上が期待できる。

②学校・教職員

多様な人々と学校がつながることで「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となる。

また、地域の人々との関わりの中で得られる多様な活動・経験を通じ、豊かな指導力の発揮・教育の質の向上につながる。

③地域

地域住民の生きがい、自己実現、地域の教育力の向上や地域の活性化につながる。さらに、地域と学校が顔の見える関係を築くことで、非常時の円滑な体制づくりにつながっていくことが期待されている。

**【参考資料】**

- ・「地域学校協働活動 地域と学校でつくる学びの未来」 H30.3 文科省
- ・「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン（参考の手引き）」 H29.4 文科省